

【本部うら盆供養】

今日は、うら盆ということもありまして、もう一度、ご先祖さま、流産児さまに対してどう心に向ければ良いかをお話します。

私達は、毎日ご先祖さま、流産児さま、因縁に対してご供養をさせて頂いておりますが、人間というのはどうしても「慣れ」というものがあります。同じ事を繰り返すと慣れてきてしまいます。

毎日のお経も慣れであげているような所があります。

生活の中にお経を入れなさいとお話しさせて頂いておりますが、しかし、慣れてはいけません。

ですから、大導師さまは、このお盆、お彼岸の時に「自分たちのご先祖さま、流産児さまに対する供養の在り方を、もう一度おさらいする、内省をする大事な期間」とご指導くださいました。

人間というのは、いろんな慣れの根性を持っております。

そこを会主さまも大導師さまも「気づけばいいのです。気づくことが大切です」と仰っておりました。

だんだん大人になるにつれて、生きる事に慣れて、わがままや欲が沢山増えて、気づきにくくなってしまっているのです。

会主さまは「お導きは気づきなのです。自分と同じ因縁を持っている人を導いた時に、沢山の気づきを頂き、懺悔をさせて頂く事ができるのです。自分の導いた方が逆らったりする姿を見た時に、自分もそうだなと気づかせて頂けます。だからありがたいのだよ」と仰っておりました。一人では気づきは頂けないのです。

これは会主さまからのご指導であります。しっかりと受け止めて、皆さんも気づきのある人になって頂いて、またこの大切なお盆の時期にご修行をして頂きたくお願い致します。

【戦没者うら盆供養】

妙智會が千鳥ヶ淵戦没者墓苑での供養を始めましたのは、会主さまの時からです。

会主さまが「戦没者は国の先祖です。今の平和は戦没者のお陰さまでございます」という事でこの千鳥ヶ淵でのうら盆供養が始まりました。

それを大導師さまへと受け継がれ、そして今、私が毎年執り行っておりますが、やはり大事な事は「長く続ける」事だと思います。

こういうコロナ禍で縮小はしましたが、昨年も今年もさせて頂く事ができました。これが大事だと私は思います。

こうやって長く続ける事が、戦没者の方への供養だと私は信じて、これからもこの千鳥ヶ淵で戦没者の方々への供養を、妙智會としてさせて頂く覚悟でございます。

会主さまが残された千鳥ヶ淵での供養をずっと続けていきたいです。

是非皆さんもその覚悟で参拝して頂いて、この平和が長く続くことを願い、日々の修行に励んで頂きたいと強くお願い致します。

いつまでもご先祖さま、流産児さま、そして戦没者の方々を忘れない事が大切でありまして、これが供養の出発点でございます。

素晴らしい妙智會の教えに基づいた戦没者うら盆供養は、これからも脈々と続けていく事を戦没者の方々にお誓い申し上げて、私の挨拶とさせて頂きます。